

研修プログラム：高校生の日本語教育・指導のためのオンライン研修

「多様な言語的文化的背景をもつ高校生のための学習環境づくり」(全3回)

第1回 「ことばの学習」の活動をデザインする—学習環境の視点から—

1 ねらい — 3回の研修を通じて

小中学校では2016年度より、「特別の教育課程」として日本語指導を編成・実施するための制度が整えられ、学校現場で導入が進められてきましたが、高等学校においても2023年度より同制度が施行されました。外国人生徒等教育においては、この制度を利用して日本語指導の充実を図り、共生社会の一員として自己を実現するためのことばの力を育むことが期待されます。そこで本研修では、多様な言語的文化的背景をもつ生徒たちが、主体的に自分の未来を切り開き、社会参画するための「ことばの学習／ことばの教育」について学びます。

自分の力の発掘と未来の開拓には、生徒がもつ潜在的な力に気づかせ、さらにその力を強みとして社会的相互作用により発展させていくこと、つまりかれらをエンパワーメントすることが重要です。これを教室の学習として具現化するために、本研修では「学習環境のデザイン」という枠組みで、日本語指導について考えます。学習環境の4要素「空間」「活動」「人工物（教材・教具等のリソース）」「コミュニティ（共同体）」のうち、「活動」「リソース」「コミュニティ」の3側面から、日本語の授業をいかに設計するかを検討します。外国人生徒等が、その言語的文化的多様性、経験や培ってきた知識・技能を生かせる学習環境づくりを目指します。そのために、例えば、教科学習活動、社会的活動、キャリアにかかわる活動等と日本語学習を積極的に関連付け、教材や教具などのリソースを工夫します。そして、人間性などを土台に他者と協働的に学ぶ活動を配置します。こうした学習環境の下で、培ってきた力を活かして自分らしく学ぶ経験を通じて、社会的存在として将来の目標をもち、自律的に学び続ける力も育まれると期待されます。

本研修は、全3回のオンライン研修です。次のテーマで構成し、講義及び実践例や現場の取り組み例をもとに、「ことばの学習」のための環境デザインについて学び、話し合います。

<3回の研修テーマ>

回	テーマ
第1回	「ことばの学習」の活動をデザインする
第2回	「ことばの学習」のリソースをデザインする
第3回	学習環境としてのコミュニティをデザインする

なお、参加にあたっては、本ユニットが作成した高等学校における「特別の教育課程」としての日本語指導に関する動画（参加者限定公開）の事前視聴による事前学習を課します。

2 第1回プログラム

「ことばの学習」の活動をデザインする—学習環境の視点から—

(1) 概要

時間	150分（2時間30分）
主たる受講者（対象）	高校で学ぶ外国人生徒等、および高校生相当年齢の子どもに日本語指導・学習支援等の支援を実施している教師・支援者等
テーマ	学習環境としての活動のデザイン
ねらいとする資質・能力*	<p><捉える力> エ 認知面の力と教科などの学力を年齢的な発達や学習経験を考慮して捉えることができる。 ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化とともに展望することができる。</p> <p><育む力> セ 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本語や教科の指導・支援、内容と日本語を統合した指導・支援をすることができる。</p> <p><変える力> ヒ 子どもが自身の多様性を支援にして活躍できる教育を実施し、多文化共生を促すことができる。</p>
研修内容	<p>1 学習環境デザインの考え方で、「日本語指導」の活動を取り上げて検討する。生徒の興味・関心に基づき、母語・母文化、これまでの経験、思考・判断する力を活かして、ことばの力を耕し育む活動について具体的な事例をもとに考える。</p> <p>2 「特別の教育課程」による日本語指導を実施している高等学校の具体的な指導体制や指導内容についての報告を聞く。</p>
事前課題	<p>参加に当たっては、事前に次の研修用スライドの視聴を求める。本研修は、以下を視聴済みであることを前提として構成してある。</p> <p>東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット（2024）『高等学校における日本語指導の制度化—「特別の教育課程」としての編成・実施について』</p> <p><1>基本的な考え方と制度の解説 <2>「特別の教育課程」として日本語指導の編成・実施のポイント <3>高等学校における日本語指導の現状と課題</p>

※公益社団法人日本語教育学会（2020）『文部科学省委託事業（2017-2019年度）「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』の「豆の木モデル」にもとづく（ウェブサイト URL: <https://mo-mo-pro.com/report>）

(2) 実施計画

活動展開	具体的な内容・活動	利用した資料等
1 説明「研修テーマ、趣旨、目標」	<ul style="list-style-type: none"> ・本研修の趣旨 ・ねらいとする資質・能力 ・研修終了後の振り返りの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修趣旨のスライド資料 参考：山内（2020）
2 講義「『ことばの学習』の活動をデザインする」 （1）学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境 ・デザイン活動とは ・デザイン思考 	<ul style="list-style-type: none"> 参考：ハーバード・サイモン（1999）／ティム・ブラウン（2019）

(2) 活動をデザインする	<ul style="list-style-type: none"> ・創造的経験的学習（ワークショップ） ・タスクベースの言語指導 	参考：山内（2020）／松村（2017）
(3) 日本語指導・学習支援例	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間「金融リテラシー」 ・学校設定科目：日本語「折れ線グラフから読み取ろう」 ・学校設定科目：日本語「受け身」 ・特別の教育課程：日本語指導「質の高い教育をみんなに」 	参考： <ul style="list-style-type: none"> ・本ユニット 2023 年度研修報告書 ・本ユニット（2023）「高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン」 ・本ユニット（2024）「高等学校における日本語プログラム」
3 事例報告	報告：「特別の教育課程」による日本語指導実施校の担当者に、体制・教育課程・授業の実際について報告いただく。	<ul style="list-style-type: none"> ・事例報告者作成スライド（3 資料の 2025 年度研修報告事例の資料を参照のこと）
4 グループワーク	質疑応答： 口頭で・チャットへ書き込みで	話し合いの課題： 生徒の経験や力を活かす活動を考える**
5 振り返り	小グループで話し合い <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・生徒のもつ力や経験を活かすための学習活動のアイデア アンケート記入 <ul style="list-style-type: none"> ・満足度 ・今後の活用のアイデア ・資質・能力の向上の有無 	
参考文献・資料 <ul style="list-style-type: none"> ・山内祐平（2020）『学習環境のイノベーション』ミネルヴァ書房 ・ハーバード・サイモン（1999）『システムの科学』パーソナルメディア ・ティム・ブラウン（2019）『デザイン思考が正解を変える』早川書房 ・松村昌紀（2017）『タスク・ベースの英語指導』大修館 ・本ユニット 2023 年度研修報告書 : https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M23_kenshu04_ogikubo2.pdf ・本ユニット（2023）「高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン」 : https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/.assets/M22_koko_nihongo_guideline.pdf ・本ユニット（2024）「高等学校における日本語プログラム」 : https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/project02/content3.html 		

※※ 活動 4 グループ活動（話し合い）の課題

ご自身が行っている日本語の授業や学習支援で、生徒が知っていること（学んだ知識経験したこと）や好きなこと・できること（趣味・運動・アート、その他、何でも）を活かして行っている活動を紹介してください。できるだけ、生徒自身が決定し、探究し・創造する活動に、また、協働で課題を遂行した

り、対話によって多様なアイデアに触れたりしたことで、考えを広め、深められたといった活動を取り上げてください。

実際に行ったことはないけれども、こんなアイデアがあるという紹介でも構いません。

- 生徒のどんな知識・経験・強みを生かして？
- どんな語彙・表現を使いながら
- どんな活動をしたか（するか）

3 資料(ダウンロード可能)

①趣旨・講義資料／グループワーク課題提示 齋藤ひろみ 東京学芸大学

②参考資料：現場の取り組みの報告 永田明久 東京都立青梅総合高等学校

③事前課題資料

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット（2024）『高等学校における日本語指導の制度化—「特別の教育課程」としての編成・実施について』

本プログラム・資料の利用について

教育・研修を目的とした利用に限ります。

資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトの URL」を明記して利用してください。

部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。